



各位

令和 5 年 3 月 1 日
東京学芸大学

2023 日本 OECD 共同研究月間

「ホンキで、インクルーシブ」開催のお知らせ

“Diversity, Equity and Inclusion (DE&I) in Action” MARATHON OF EVENTS
- MARCH 2023

様々な壁を越えて、未来の教育を実践し実装しようとする日本(東京学芸大学事務局)と OECD の共同研究プロジェクトが、この 3 月を「日本 OECD 共同研究月間」として、“Diversity, Equity and Inclusion (DE&I) in Action (ホンキで、インクルーシブ)”をテーマに、17 個(3 月 1 日現在)のワークショップをマラソン開催いたします。

日本や世界の、これからの社会や教育のあり方を考えたい全ての人(先生、生徒、公務員、ビジネスマン、研究者、メディア関係者、親、おとな、こども...)に、興味のあるワークショップにご参加いただき、日本と世界全体の well-being の実現に向けたアクションを、みんなと一緒に考えたいと思います。

[それぞれのワークショップへの参加登録受付中です。](#)

立場を超えて、一人一人が協働して求められる方向に社会を動かす礎にしたいと心から願っています。何卒、ご支援、ご参加のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- ◇ 名称：日本 OECD 共同研究月間「ホンキで、インクルーシブ」
“Diversity, Equity and Inclusion (DE&I) in Action” MARATHON OF EVENTS - MARCH 2023
- ◇ 期間：2023 年 3 月 3 日（金）～3 月 31 日（金）
- ◇ 場所：オンライン開催（一部対面開催あり）
- ◇ 内容：“Diversity, Equity and Inclusion (DE&I) in Action（ホンキで、インクルーシブ）”をテーマに 17 個（3 月 1 日現在）のワークショップを開催
- ◇ 共催：東京学芸大学、経済協力開発機構（OECD）
- ◇ 後援：文部科学省、外務省、内閣府





The OECD Learning Compass 2030



↑2022年夏のあそびbAのWSではハンディキャップ、年齢、立場等の「壁」を越えた議論を実現

○日本 OECD 共同研究月間の趣旨について

国立大学法人東京学芸大学（学長：國分充、小金井市）は、経済協力開発機構（OECD）との共同研究の一環として、OECD 東北スクール¹の直系後継事業に相当する国際共創プロジェクト「[壁のないあそび場-bA-](#)」(2022 年から)を実施しています。「壁のないあそび場-bA-」の日本の生徒/学生が声をあげ、カナダやポルトガルの生徒/学生が他国の教育関係者も巻き込みながら、世界の子どもたちが置かれた状況から自らのより良い未来を信じ広がりつつある OECD「プロジェクト∞無限大(Project ∞ Infinity)」も一体となって進んでいます。このプロジェクトでは、OECD ラーニングコンパスを片手に、異なる国の生徒たちが、自らの無限大の可能性を信じて、より良い未来を共創する国際 PBL を実践・実装しようとしています。また、2024 年秋・冬に、パリ OECD 本部にて、生徒・教師国際サミット（仮）を予定しています。

「日本 OECD 共同研究月間」（期間 3/3-3/31）は、こうした「プロジェクト∞無限大(Project ∞ Infinity)」と「[壁のないあそび場-bA-](#)」を軸にして、教育界だけに限らない多くの共創パートナーの皆様と開催することになりました。

この日本 OECD 共同研究月間では、テーマを昨年 12 月に開催された [OECD 教育大臣会合](#)での宣言（[Declaration on Building Equitable Societies Through Education](#)）を中心に据え設定しました。“Diversity, Equity and Inclusion (DE&I) in Action（ホンキで、インクルーシブ）”です。東北スクールのスピリットを継承するコミュニティとして、「日本における”DE&I”」について、過去を振り返り、未来が DE&I 溢れるために、どんな常識を超

¹ OECD 東北スクール-OECD：OECD 東日本大震災の復興支援事業として、震災で被災した約 100 名の中高生が、教師、企業、自治体など、様々な他者と協働しながら、地域復興に参画したプロジェクト。<https://www.oecd.org/tokyo/topic/oecd-tohokuschooljapanese/oecd-tohoku-school.htm>



えなければならないのか、国境を超えて探求する数々の対話を予定しています。

東京学芸大学の社会との共創事業の一環としても、これまでにご縁のあった多種多様な産官学ステークホルダーの皆様を共創パートナーに迎え、複数のワークショップをマラソンのように開催し、新たな共創パートナーを発掘する機会とすることで、コレクティブインパクトを目指すことにコミットしております。

皆様におかれましては年度末の折、ご多忙極まりない中と存じます。そのような中、誠に恐縮ではございますが、「日本OECD共同研究月間」へのご支援とご参加を賜りたく、また、今後、共創パートナーとしてご参画の可能性を考慮頂きたく、ご案内申し上げる次第です。



↑2023年1月には、ポルトガルの中高校生や大人とオンライン上で国際的なコラボレーションを実施

↓参画する中学生が自ら新しいスタイルの制服を考案し、学校発信イベントで大々的に発表



開催する17のワークショップの一覧表は、[web サイト](#)(下線部リンクあるいはQRコード)をご覧ください(参考資料として一覧表を添付しております)。また、[カレンダー形式](#)でもご覧いただくことができます。



ここでは、その中でもいくつかのワークショップをご紹介します。

○日本OECD共同研究マラソン月間キックオフワークショップ(3/3 21:00-23:00)

日本OECD共同研究月間のキックオフとして、対話を大切にするE2030のカルチャーを体感する場として、参加体験型のワークショップを開催します。OECD e2030から「ディベートから対話へ」、ブラジルから「パウロ・フレイレの対話」、インドから「群盲評象」、日本から「吾唯足知」が紹介され対話の場が広がります。

○"Living together with radiation and war" 放射能と戦争の中で共に生きる(3/10 17:30-19:30)

福島とウクライナの生徒さんたちの声から始まるWSでは、ウクライナの高校生の声を生で聴く体験とともに、一人の福島の高校生からは、風評被害やトリチウムの問題提議の予定です。放射能、とは私たちにとってどのような課題となっているのでしょうか。生徒さん



たちの声をウクライナと福島の方から世界に届けることで、世界の教育に期待される普遍的な価値づけをすることをねらいとしています。

○「先生って魅力的なオシゴト！」(3/12 13:00-15:00、18:00-20:00)

将来教師になりたい学生・院生が企画しています。先生になることにわくわくを感じるワークショップを目指して、理想の教室をゼロから作ってみよう！という内容で、将来教師になりたい大学生・高校生・社会人、実際に学校で働いている教員、教員を退職した人などが世界から集い、対話するセッションを開催します。

○「人的資本・社会資本の活用で地方が熱い！（仮）」(3/14 18:00-20:00)

経済資本以外の資本(人的資本/社会関係資本)が豊かな事例として日本を捉えつつ、地方の実践のさまざまな取り組みをフィーチャーします。また在外教育施設(日本人学校等)も人的資本/社会関係資本として捉え、国内の地方の学校が結びつき、日常的に教育/学習活動を交換することで、国際を日常的に感じることでできる新しい探究活動や新しいグローバル教育の事例等を紹介しみんなでそのあり方話考えます。

○「これからのインクルーシブ教育の新しいカタチ（仮）」 presented by 若手研究者 (3/19 17:00-19:30 予定)

インクルーシブな未来実現に向け、日本で暮らす外国にルーツをもつ子どもの教育のあり方、特別支援教育の新しいカタチ、自治体統廃合の中におけるカリキュラム開発、居場所カフェを校内に創る取り組みなど、若手研究者が、日本の未来の教育の課題となるテーマを先駆けて、制度や政策への示唆を考える研究をご紹介します。

○「同じ地面に立つ私たち、虹色の個性」(3/25 19:00-20:30)

聴覚障害のある生徒が企画しています。多様性溢れるインクルーシブな社会を目指すうえで、既存の社会にある「壁」について共に考えるセッションです。当日は、生徒があべこべ体験（「目で楽しむ」詩の朗読）を披露してくれる予定です。生徒自身が抱えている思いに耳を傾けながら、既存の社会にある壁について共に考えましょう。

○「さんすう、数学苦手な子集合！」(3/28 17:00-18:30)

さんすう/数学のテストが苦手で、教科そのものをキライになってしまった経験がある方はいませんか？さんすう/数学は従来までのペーパーテストに答えるために習得するものではありません！皆さんの身の回りの事象にさんすう/数学的な視点を見出し、もっと身近にさんすう/数学を感じてみましょう。そして、さんすう/数学がスキ！と思えるような新しい評価の在り方を共に考えましょう。



その他にも、普段は OECD 本体の Education 2030 コミュニティメンバーのみが参加可能な国際会議も、日本の教育関係者に、世界の仲間と国際共創するプロセスを肌で感じていただくために、通訳サポートなど可能な範囲で準備をしております。開催予定の詳しい内容、日時につきましては、直前まで変更される可能性がありますので、最新情報 QR コードから一覧表やカレンダーにアクセスして、申し込みや内容のご確認をお願いできれば幸いです。

○日本 OECD 共同研究月間内容一覧表

https://drive.google.com/file/d/1kk26cESsXrqBSbKi4L9dEoJxzfZwusp=share_link



○日本 OECD 共同研究月間カレンダー

<https://docs.google.com/document/d/1YwYoG0Y0WyO5wgW0ROedTO-5iSADkYhw8/edit>



重ねまして、ご関心、ご興味をお持ちいただけるセッションがございましたら、お申し込みいただき、ご参加を賜われましたら幸いです。また、準備中でまだ登録リンクがないもの等も、ご予定を先行してご確保くださいますようお願い申し上げます。

ご質問等ございましたら、事務局までお気軽にお問い合わせください。また、機会がございましたら、他の方にもご周知いただけますと幸いです。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

東京学芸大学 日本 OECD 共同研究
国際共創プロジェクト事務局

Tokyo Gakugei University, Japan OECD Joint Research
Secretary Office

Email: collective@u-gakugei.ac.jp

042-329-7901